

2022年 10月3日 終始業式

今年こそは、ウイルスとも共存してできる限りの教育活動を実践していきたい意気込みをもって令和4年度をスタートし、本日で前期が終了、そして後半がスタートします。どんな思いを胸に、どんな半年を過ごしましたでしょうか。

前期振り返ると、行事が盛りだくさんでしたね。先日もお話したように、学校は勉強以外にも皆さんの今後の生き方のヒントとなるように、さまざまな出会いを提供しています。文化祭、クラスマッチ、合唱コンクール、キャリアデー、また先日のサヘルさんの講演、一つ一つの出会いから、新しい発見や自分の考えや見方を振り返る機会になったでしょうか。

福沢諭吉の「学問のすすめ」の12編に、ある書生の有名な話があります。

書生は国を離れて長い間、江戸で勉強しました。偉い先生方の教えを聞いて、日夜怠らず書き写し取ったところ、数年間でそのノートは数百冊にもなったそうです。ついに学問を成すことができたので、書生は故郷に帰ることにしました。自分は東海道を下り、写し取ったノートはつづらに入れて船で送りました。しかし不幸なことに、その船は静岡沖のあたりで難破してしまい、自分は故郷に帰ったものの、学問はすべて海に流れてしまって、身に着いたものは何もなく、その書生の愚かさは勉強する前と何も変わらなかった という話です。福沢諭吉は「学問の要は、活用あるのみ。活用なき学問は無学に等し」と言い切り、この書生のお話を例にあげています。諭吉は、ただ学ぶだけでは本当の学びとは言えない。学んだことをどのように活用するか、その意識が大切だと述べています。学問をする前と変わらなかった と評された書生には、学びの基本姿勢として「自分の頭でしっかり考え、どうすれば学んだことを、人のため、社会のために使うことができるか」という視点が欠けていたのではと考えます。

そう思うと、私自身の経験から、高校時代に苦しんで学んだ数学の公式、英語の単語・・・残念ながら蓄積はされていませんが、その時に取り組んだ「学ぶことを学ぶ」という姿勢や先生から受けた言葉かけ、仲間と切磋琢磨した経験は、しっかりと今生きていくうえで大いに役にたっており、これも学んだことを社会で活かしていると胸を張って言い切れる宝物になっています。

ソサエティー5.0と言われるこれから時代は、いわゆるデジタルを使いこなすことが目的ではなく、それを有効に活用し生活やビジネスにどう変革をもたらしていくかの時代、です。つまり皆さんが学校で経験したことはすべて「学んだこと」で、それをどう社会で活用するか。福沢諭吉の今の話と大いに通じるころですね。

いよいよ後期に入ります。前期で学んだことや考えたことが、3年生にとっては進路実現に向けて、1, 2年生には自分の進路を切り開いていくために、考えたことや発見を今後の学習にどう活用しどう展開していくかを模索する、そんな後半の6か月間にしてほしいと願います。

さて終わりに、皆さんに1つ提案があります。皆さんは、「礼節をわきまえる」「TPO」「時宜を得た行動」という言葉をしっていますね。高校を卒業し世の中に出てしまうと、「知っていて当たり前」とみなされるので、こんな話をされることはないと思うので、ぜひ考えてほしいと思うことがあります。例えば、お葬式の時に大声で笑ったり、派手な真っ赤なドレスで参列したりしま

せん。会社の面接に行くのに寝巻ではいきませんね。私が本校にきてびっくりしたのは、学校の体育ジャージで登校する生徒、授業を受けている生徒が非常に多いところです。禁止にしている学校は数多くありますが、本校は特に生徒指導上、校則として禁止にはしていませんが、それは体育の時間に着用するジャージです。学校にお越しになるお客様、同窓生も、びっくりしています。一時期、北信地区の学校でも、特に1年生ですね。学校ジャージで登校する生徒が流行ってしまい、地域から「お宅の学校は毎日クラスマッチなんですか??」と苦情の電話もいただきました。特におしゃれをして学校に登校する必要はありませんし、理由があつてそうしている場合もあるかもしれませんが、場に応じた行動、服装をすること、今自分はこの場にあつてどう行動するのか、服装も含めて、そのことをぜひ考えてほしいな ということを提案します。

それでは、自分の夢を切り開く後期が始まります。感染症との共存も続きます。安全で健康で、悔いのない時間を過ごせるよう努力していきましょう。